



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。  
どれだけ実践できているか、チェックしてみましょう！

推進技術	目標	チェック
1 播種量 (うす播きの励行)	・1箱当たり乾もみ120gの播種は実施できましたか。(太植による過剰生育の抑制)	
2 育苗日数 (健苗の育成)	・播種から田植えまで1か月以内の育苗日数が守れましたか。(初期生育の確保)	
3 植付本数 (3~4本植えの励行)	・1株当たり3~4本の植付本数を守りましょう。(適正茎数の確保)	
4 適正な栽植密度 (優良茎の確保)	・1坪当たり50~60株の栽植密度が確保できましたか。(適正茎数の確保・乳白粒対策)	
5 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上)	・生育に応じた施肥ができていますか。 ・生育状況に応じた追加穂肥の実施をしましょう。	
6 田植え時期 (早植えの防止)	・5月田植えを実施できましたか。(過剰生育の防止)	
7 中干し・溝切り (遅発分けつの抑制)	・田植え1か月後からの実施(過剰生育防止) ・中干し期間1か月(コシヒカリ)の遵守	
8 除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9 水管理 (飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理(乳白粒対策、胴割粒防止)	
10 刈取時期 (適期刈取りの励行)	・もみの黄化程度に応じた刈取り	

中干し開始の目安は田植え後一ヶ月!! 溝切りは、6月6日頃から始めましょう!

乳白粒を減らすために中干しと溝切りを徹底しよう!!

今月のポイント① 浅水管理と田干しで分けつ確保 ⇨ 営農の手引き41ページも参照ください

- 浅水管理で地温の上昇を図り、良質な分けつの確保に努めましょう。
- 天気の良い日は落水して田干しをし、根張りをよくしましょう。藻の対策にもなります。
- 低温や強風時には、深水(5cm)管理とし保温に努めましょう。

今月のポイント② 田植え後1か月を目安に中干し、溝切りで過剰生育の抑制! ⇨ 営農の手引き42ページも参照ください

●中干しの適期実施 → 株の出来すぎストップ → 乳白粒の減少

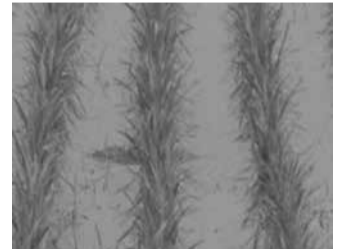
- ・中干し開始の目安は、目標穂数の70%の茎数が確保された時期です。遅れないよう中干しを実施しましょう。

中干し開始時期 6月1日~6日

中干し開始本数の目安

- ・コシヒカリ 13本/株(60株/坪) 16本/株(50株/坪)
- ・ゆめみづほ 15本/株(60株/坪) 18本/株(50株/坪)

中干しの程度 田面にひびが入る程度(軽く足跡がつく程度まで行いましょう)



中干し開始適期の生育量(コシヒカリ)

【中干しの効果】

- ① 窒素の吸収を制限して、過剰生育を防止する。
- ② 土壌中へ酸素を供給して根を健全にする。
- ③ 溝切りと併用することで、収穫時の機械作業が可能な地耐力を確保する。

↓  
過剰分けつの抑制、過剰籾数の軽減、根の健全化、倒伏防止

↓  
登熟向上、乳白粒の軽減、食味向上

●溝切りで、入水・排水がらくらく!

- ・溝切りは5~6m(20条)間隔に行い、溝はしっかりと排水口につなげましょう。
- ・溝切りを行う際には、3~5日干してから行うと溝がしっかりとつきます。

「溝切りの作業請負」のご案内 (営農の手引き7ページも参照ください)

作業請負の期間: 6月6日~6月30日 申し込み条件: 1地区あたり5ha以上

◎お問い合わせは、JA石川かほく営農販売課へ(☎288-7555)



裏面に続きます

**今月のポイント③ 本田および本田周辺の除草** ⇨ 営農の手引き43ページも参照ください

※本田初期の雑草対策については、米米情報 第3号または営農の手引きの32～35ページも参照してください

●**本田の後発雑草対策**

○**ノビエの取りこぼしが多いとき《ヒエ剤》**

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
ヒエクリーン 1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	1回	湛水散布
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫30日前まで)	1kg	2回以内	
	移植後25日～ノビエ5葉期 (但し、収穫30日前まで)	1.5kg		

○**広葉雑草の取りこぼしが多いとき《広葉剤》**

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
バサグラン粒剤	移植後15～55日 (但し、収穫60日前まで)	3～4kg	1回	落水散布または、ごく浅く湛水して散布

○**ノビエ・広葉雑草とも混在するとき《ヒエ剤+広葉剤》**

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
アトトリ 1キロ粒剤	移植後20日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	1回	湛水散布
ワイドショット 1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1kg	1回	

○**イボクサ、クサネムが残ってしまったとき**

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	本剤の 使用回数	使用方法
ノミニー液剤	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで (但し、収穫60日前まで) 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで (但し、収穫60日前まで)	50～100ml 希釈数量 100ℓ	1回	落水散布または、ごく浅く湛水して散布

●**農道および畦畔の除草** ⇨ 営農の手引き44ページも参照ください

- ・水田周辺の斑点米カメムシの発生密度を下げるため、草刈りまたは除草剤で除草に努めましょう。
- ・6月23日・24日は「一斉除草デー」です。農道や畦畔の除草を行いましょう。

**今月のポイント④ 珪酸加里プレミアの施用で良質米生産!** ⇨ 営農の手引き43ページも参照ください

- 稲体を強くし、根の活力が向上します。
- 施用時期 6月中～下旬、施用量 30kg/10a
- 土づくり肥料を施用していない場合は施用に努めましょう。
- けい酸パワーコシー発くん施用の圃場には珪酸加里プレミアを施用する必要はありません。

**今月のポイント⑤ いもち病・白葉枯病の予防** ⇨ 営農の手引き43ページも参照ください

- 田植え時にツインターボ箱粒剤08・ブイゲットバリアード粒剤・Dr.オリゼフェルテラ粒剤などの箱施薬剤を施用しなかった圃場は、必ずオリゼメート1キロ粒剤を散布してください。(6月15日～20日頃) 特に白葉枯病の常発地では必ず散布してください。
- 補植苗はいもち病の発生源になるので早急に処分してください。

**イナゴの発生が目立つ場合は随時防除**

- トレボン粉剤DL (3～4kg/10a、使用回数3回以内) を散布しましょう。
- 毎年発生が多い地域では、田植時にDr.オリゼプリンス粒剤6 (50g/箱) を施用しましょう。

**JA石川かほく米555共励会 今月のポイント**

- 中干しの適期開始で過剰生育を抑制し、乳白粒発生防止・単収アップ
- 中干しの実施で田面を固くし、収穫作業楽々で労働時間短縮
- 珪酸加里プレミア施用で、登熟向上・品質向上・単収アップ  
「JA石川かほく米555共励会」エントリー受付中 (5月末まで)。